２０２４年(令和６年)

登録電気工事基幹技能者　認定講習

試　験　問　題

一般社団法人　日本電設工業協会

●解答は全て解答用紙に記入して下さい。

問題１　登録基幹技能者に期待する役割と、求められる能力に関する問題です。
次の文章で、（　）に当てはまる語句の組合せとして、**もっとも適当なもの**を選び、その番号に○をつけなさい。

登録電気工事基幹技能者は、（　ア　）の円滑化と効率的な管理を図るため、まず（　イ　）としての機能を果たし、かつ、積極的な（　ウ　）の提案や技術者に任せていた他の登録基幹技能者や職長などとの（　エ　）を行い、責任施工を果たすための施工管理を行う必要がある。

	ア	イ	ウ	エ
１．	工事	電工	原価低減	打合せ
２．	施工	職長	施工方法	連絡・調整
３．	施工	代理人	施工方法	打合せ
４．	工事	技術者	原価低減	相談
５．	現場	技能者	作業方法	連絡・調整

問題２　現場において、ＯＪＴで部下に対する話し方の記述で、**もっとも不適当なもの**を選び、その番号に○をつけなさい。

１．本人がいないときに褒めておき、それが本人に伝わることでやる気が上がることも期体できる。

２．努力して成し遂げたときは、褒め言葉をかける。褒めるところが無い場合は、ねぎらいの言葉をかける。

３．「次にはこれができるように」と次の目標を与える。

４．良くできたことは、タイミングよく、具体的に褒める。

５．他人と比較をして、できないことを叱る。

問題３　施工計画の記述で、**もっとも適当なもの**を選び、その番号に○をつけなさい。

１．施工計画とは、工程管理、品質管理、原価管理、設計監理を行うための基本となるものである。

２．施工計画は、計画段階で十分な検討をした上で計画をたてる必要がある。そのことによって工事を円滑に決められた工期内で、ムリ・ムラ・ムダをなくし、予算は多少増えても品質の良い仕事を、安全に施工することができる。

３．施工計画をたてるには、工事の契約書、設計図書など十分に理解することが必要である。

４．設計図書間に相違がある場合の優先順位は一般的には、①質疑回答書　②現場説明書　③設計図面　④共通仕様書　⑤特記仕様書　となっている。

５．電気工事の施工にあたっては、関係法令に違反することなく、工期内に顧客のニーズに応じた品質の良いものを造るかを考え、そして実行することが求められている。
その場合、コストについては考えない。

問題４　現場における予算管理の記述で、**もっとも不適当なもの**を選び、その番号に○をつけなさい。

１．労務費は、工事量により必要とされる工数を想定して計上されている。施工に当たっては、当初に想定された工数を超過しないように管理する。

２．現場での追加変更内容は、軽微なものであればその都度技術者に口頭にて報告する。

３．電線・ケーブル、配管材料等、施工中に若干変更が発生するものについては、種類別に管理する。

４．建築工事においては、当初の設計図書で完成する現場はほとんどない。登録電気工事基幹技能者は、技術者と打合せを行い、施工範囲を理解しておく。

５．主要材料については、使用数量が明確になっているので、数量をチェックすることにより、超過使用にならないように注意する。

問題５　現場において登録基幹技能者に必要な資質の記述で、**もっとも不適当なもの**を選び、その番号に〇をつけなさい。

１．リーダーとして大切なことは【信頼】だが、その信頼は約束を守ることから得られる。

２．体が弱くては強力なリーダーシップの発揮は難しい。

３．仕事に信念を持ち、決断力を養って行動する人についてくる。決断力の強い人は難局を避けずに立ち向かって勝利する。

４．施工面のリーダーとして多くの知識を有し、その知識を基に多くの理屈を言えば、人はついてくるものだ。

５．人を率いるには人間愛は重要な要素で、情けが無くては人はついてこず、厳しさの中でも温かい配慮こそが重要である。

問題６　施工計画書の記述で、**もっとも適当なもの**を選び、その番号に〇をつけなさい。

１．総合施工計画書は請負者が工事全般について、工事の基本的事項や工事着手前にたてた施工計画をまとめた書類である。

２．施工計画書とは、着工時に作成する総合施工計画書のみのことを言う。

３．総合施工計画書には一般的に、工事概要・機器搬入計画・労務計画・工程内管理計画等があるが、仮設計画は含まれない。

４．工種別施工計画書は、施工の均一化、品質の維持向上を図るため、施工の要点・手順について分かりやすく、かつ、具体的に記載したもので、特に監理者に承諾を受けるものではない。

５．工種別施工計画書は、個々の現場に応じて作成することが必要であり、その現場の施工標準とは別である。

問題７　太物ケーブル等の重量物搬入の記述で、**もっとも不適当なもの**を選び、その番号に〇をつけなさい。

１．運搬ルートにはあらかじめ養生シートを敷き、段差など破損しないようゴムシート養生を段取りする。

２．太物ケーブル等の搬入は揚重機を使用しての重量物搬入となる。

３．仮置き場への運搬はロングリフト、仮設エレベータ、揚重機を使用して搬入するが、建物の高さ、資材の重量、クレーンやレッカーの作業半径等を考慮する。

４．重量物の仮置き場所は耐荷重を考慮し構造梁部分に集積する。

５．工事エリア以外から搬入する場合は第三者に対する安全を確保するため動線に監視員や誘導員の配置を行い歩行者の安全に対して十分に配慮する。

問題８　建設現場の日常業務の中の安全施工サイクルには様々な安全活動がある。その安全活動の記述で、**もっとも不適当なもの**を選び、その番号に〇をつけなさい。

１．作業前の安全朝礼：全員参加による作業所長等よりの前日の巡視結果等の発表、当日の作業安全指示及び体操の実施。

２．安全ミーティング：職長を中心とした職種ごとの話し合い、危険予知（KY）活動及び新規入場者教育の実施。

３．作業開始前点検：作業開始前における使用機械・工具等の点検及び作業確認等の安全点検。

４．安全パトロール：作業所長等の安全パトロールによる職長等への指導の実施。

５．安全工程打合せ：下請業者による翌日の業種間の連絡調整と作業方法等の検討の実施。

問題９　「建設業働き方改革加速化プログラム」に関する記述で、**正しいもの**を選び、その番号に〇をつけなさい。

１．民間工事における週休２日工事を大幅に拡大するとともに、週休２日の実施に伴う必要経費を的確に計上するため、労務費等の補正の導入、共通仮設費、現場管理費の補正率の見直しを行う。

２．長時間労働とならない適正な工事価格設定を推進するため、各発注工事の実情を踏まえて「適正な工事価格設定等のためのガイドライン」を改訂する。

３．社会保険に未加入の建設企業は、建設業の許可・更新を認めない仕組みを構築する。

４．技能・経験にふさわしい処遇（給与）が実現するよう、建設技術者の能力評価制度を策定する。

５．技術者の資格や現場の就業履歴等を業界横断的に登録・蓄積する「建設キャリアアップシステム」が 2018 年秋より運用開始で、概ね５年で全ての建設技術者（約 330 万人）の加入を推進する。

問題１０　資材の受入検査の記述で、**もっとも不適当なもの**を選び、その番号に〇をつけなさい。

１．資機材を工場において検査し、また、現場搬入時に検査をして、不適合製品を排除することは、必要である。

２．その他資材については、現場搬入時に手配数量確認を行い、製造者・仕様・規格等に適合しているかの検査も行う。

３．承諾図にて承諾を得た機器で工場検査を省略したものは、現場搬入時に数量チェックと共に承諾図との照合確認、工場出荷時の自主検査結果の確認を行う。

４．その他の資材については、現場搬入時に全数検査を行う。

５．仕様・規格の相違、破損、きず、錆などがある資機材を使って施工した場合に、よい品質の電気設備と言えなくなる。これらを防ぐのが受入検査である。

問題１１　地球温暖化、気温上昇による将来のリスクの記述で、**もっとも不適当なもの**を選び、その番号に〇をつけなさい。

１．気候変動に伴い、地震や津波災害及び火山噴火等によるリスクがある。

２．気候変動と合わせて、持続可能ではない海洋及び土地の利用、生息地の破壊、都市化の拡大、不衡平によって、人間の脆弱性が増大しているリスクがある。

３．約 33～36 億人が気候変動に対して非常に脆弱な状況下で生活しているリスクがある。

４．気候変動の影響とリスクは複雑化しており、管理が困難になっているリスクがある。

５．地球温暖化が、次の数十年間またはそれ以降に、一時的に1.5℃を超える（オーバーシュート）場合1.5℃以下にとどまる場合と比べて、深刻なリスクに追加的に直面する。

問題１２　登録電気工事基幹技能者が現場で行う事務管理の記述で、**もっとも適当なもの**を選び、その番号に〇をつけなさい。

１．作業員名簿のチェック時の留意点で、年少者（16 歳未満）、高齢者（作業所により異なる）の人はいないか確認が必要である。

２．協力業者や他職との打合せは、もっとも重要と思われるものを記録に残し、その都度技術者に報告する。

３．再下請負通知書（変更届）は、一次下請負業者が二次下請負業者に発注する場合のみ作成する。

４．作業指示書・安全指示書の内容については、当日の作業予定や作業範囲を説明。また、他業者との近接作業の内容と概略を周知させることや、技能者の人員配置と各人の役割を記載する。

５．火気使用願は、チップソーを使用する場合提出を省略できる。

問題１３　工程管理の役割に関する記述で、**もっとも不適当なもの**を選び、その番号に〇をつけなさい。

１．工程表を作成するのは技術者であるが、作成において技術者より相談があれば提案と協力を行う。

２．毎日行われる工程会議は、各職種の進捗確認や問題点があれば調整する重要な会議であるので、登録電気工事基幹技能者は参加する必要はない。

３．作業進捗管理と適正な人員配置は、進捗に応じて作業量が多くなったり少なくなったりするため、常に工程表をよく検討して人員配置を考えねばならない。

４．作業日報の作成は、作業内容を書くことで、現場調整会議で決定されたことや工程表にある作業の漏れが無いかなど確認できる。

５．工程管理をする上で重要なことは、「良い品質で、より安く、工期を守り、安全に行う」ということである。

問題１４　労務管理に関する記述で、**正しいもの**を選び、その番号に〇をつけなさい。

１．労働基準法の遵守：労働基準法で年少者の使用制限については、「満18才に達した後の最初の3月31日が終了しない児童は、労働者として使用してはならない」と定められている。

２．適用事業報告書の届け出：事業所・工事現場を開設したとき、遅滞なく、保健所に適用事業報告書を届けなければならない。

３．労災保険 保険関係成立届：元請けとして、請負額１億８千万円（消費税除く、H27.4.1改定）以上は単独、又は未満は一括として、工事開始翌日から10日以内に所轄労働基準監督署に届け、認可番号票を道路に標示する必要がある。

４．健康診断：作業者の健康状態を把握する為にも、２年に１回の定期健康診断を受診させなければならない。

５．働き方改革関連法：時間外労働の上限規制は、建設業に対しては猶予期間が設定されていたが、2024年4月1日から適用となり、臨時的な特別の事情がなければ原則月45時間・年360時間内で、違反をすれば６か月以下の懲役または30万円以下の罰金が科されるおそれがある。

問題１５　あなたが申込時において申請した業種で「実務経験証明書」の職長欄に「職長」と記載した工事の中で、職長として守る必要がある電気工事士法における資格と義務について、次の問いに答えなさい。

１）　工事名称

２）　電気工事士法では、電気工事の作業に従事する者の資格及び義務を定めています。電気工事の資格について、どのような資格があるか４つ述べなさい。

①

②

③

④

３）　電気工事の作業に従事するにあたり、電気工事士でなければできない作業（電気工事士法施行規則第２条）を４つ述べなさい。

①

②

③

④

４）　電気工事士法を遵守することによる効果を２つ述べなさい。

①

②

2024年 登録電気工事基幹技能者 認定講習 修了試験問題解答と合格基準

一般社団法人 日本電設工業協会

登録電気工事基幹技能者 認定専門委員会

2024年 登録電気工事基幹技能者 認定講習は、(一社) 日本電設工業協会の9支部及び4都道府県協会によって、13会場で開催され、講習終了後に修了試験が実施された。今年度の受講申込者は657名であり、そのうち受講(受験)者は、633名で内合格者は、590名(合格率93.2%)であった。
以下、2024年の修了試験問題の概要と解答及び合格基準を示す。

1　2024年 登録電気工事基幹技能者 認定講習 修了試験

1　試験問題の内容と構成

1) 出題基準

・職長として、施工現場で行った采配の記述（小問題4問）　1問題
・認定講習内容及び読本からの出題、択一式　14問題

2) 出題内容と構成

・問題　1　登録基幹技能者の役割・能力に関する問題
・問題　2　OJTの話し方に関する問題
・問題　3　施工計画に関する問題
・問題　4　予算管理に関する問題
・問題　5　登録基幹技能者の資質に関する問題
・問題　6　施工計画書に関する問題
・問題　7　資材の搬入に関する問題
・問題　8　安全施工サイクルに関する問題
・問題　9　働き方改革に関する問題
・問題１０　受入検査(資材)に関する問題
・問題１１　環境(地球温暖化)に関する問題
・問題１２　事務管理に関する問題
・問題１３　工程管理での役割に関する問題
・問題１４　労務管理に関する問題
・問題１５　受講申込時の「実務経験証明書」の「職長欄」に職長と記載した工事で「電気工事士法」の資格と義務を記述する問題

2　試験問題の正解と配点

	正解	配点
問題　1	2	5
問題　2	5	5
問題　3	3	5

問題　４	２	５
問題　５	４	５
問題　６	１	５
問題　７	１	５
問題　８	５	５
問題　９	３	５
問題１０	４	５
問題１１	１	５
問題１２	４	５
問題１３	２	５
問題１４	５	５
問題１５	－	３０

３　具体的評価

１）択一問題の評価基準

①問題１から問題14は、１問正解につき各５点とする。

②各問題の不正解と､1問題で２つ以上の○印のついた解答は0点とする。

２）記述問題の評価基準

記述問題 15 は、受講申込時の実務経験証明書に記載された現場で「職長」としての業務内容の記述により判断する。

３）記述問題の配点と採点基準

①　配点

問１、問４､・・・各５点、　問２、問３・・・各10点

②　採点

問１において「実務経験証明書」の「職長欄」に職長と記載された工事において、職長の立場で行った業務内容を問う問題であるため工事名称が正しく書かれていることを基本とする。

従って、問 1 で「実務経験証明書」の「職長欄」に「職長」と書かれた工事名称が正確に記載された者には 5 点を、そうでない者には 0 点とする。

問２･問３は記載内容により 0～10 点とし､問４は 0～5 点を配点する。

また、問１を５点取得した者は、問２以降を記述内容により通常に採点を行うが、問１が０点の者は、配点の 1/2 を満点として採点する。

Ⅱ　登録電気工事基幹技能者 認定講習修了試験の合格基準

登録電気工事基幹技能者認定講習修了試験において、100 点満点で 60 点以上を取得した者を合格者とする。

以　上